

平成 21 年 6 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18390573
 研究課題名（和文） 看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討
 研究課題名（英文） Goal Achievement of Midwifery Integration Curriculum for bachelor of Nursing Education
 研究代表者 新道 幸恵（SHINDO SACHIE）
 日本赤十字広島看護大学・看護学部・教授
 研究者番号：30162796

研究成果の概要：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標の構築を目的に、カリキュラムや卒業生のキャリアデベロップメント、海外の同様な教育を行っている看護系大学におけるカリキュラム及び卒業生のキャリアデベロップメントの調査を行って、分析した。その結果、統合カリキュラムによる教育の良さとともに教育方法の開発の必要性という課題を明らかにでき、到達目標の構築という本研究の最終目標を達成することができた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2007 年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2006 年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
総計	1,5400,000	4,620,000	20,200,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：統合カリキュラム 助産師教育 到達目標 キャリア開発 能力期待

1. 研究開始当初の背景

助産師の育成を目的にした教育コースは、現在大学院、専門職大学院、大学、短期大学、専門学校と多様を極めている。その多様なコースにおいて、分娩例数 10 例を資格要件とする指定規則に照らして、能力をその要件のみにて論議され、看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の問題が指摘されている。しかし、それらの批判については必ずしも科学的データによるものではない。また、平成 15 年度の文部科学省の看護学在り方検討会報告では、看護の学士課程においては統合カリキュラムを前提とすることが明らかにされた。

2. 研究の目的

本研究は、平成 17 年度の文部科学 基盤研究（C）企画調査において準備調査を進めてきた研究を基に、看護系大学の統合カリキュラムによる助産師教育の到達目標を学生の卒業後のキャリア開発を視野において、職場適応との関連性に基づいて検討する。

3. 研究の方法

（1）看護系大学が急増した約 10 年前までさかのぼり、統合カリキュラムにより教育を受けた学生の卒業後のキャリア開発の過程を各自が受けた教育目標・内容や卒業後の職場における環境要件や個人的要件などによって分析する。

(2) 助産師教育関係者及び卒後の学生を引き受ける現場の指導者の助産師学生に対して期待する能力を明らかにし、能力期待についての両者の認識の特性を背景と共に分析する。

(3) 上記(1)と(2)の結果の分析を基に、看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標を構築する。

4. 研究成果

(1) 看護系大学における統合カリキュラムの教育について；

教育班では、看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育において、卒業生を出している大学の助産師教育のカリキュラムや教員の教育に関する課題やその対策を主とする意識、さらに教育方法やその創意工夫などの実施状況などについて授業要項などの資料の分析、教員への面接調査及び質問紙調査を実施した。

看護系大学において統合カリキュラムで助産師教育を行っている教員は、その教育上の問題を教員及び学生の多忙さ、教育時間の不足などを主としてあげていた。その背景には、助産師学生が卒業までに分娩を10例取り扱うことという指定規則の規定の遵守のために、実習施設及び実習期間の確保の困難さ、そのことに向けた分娩介助技術教育に関する苦勞、カリキュラム構築上の問題点などがあることも明らかになった。カリキュラム上の問題点としては、大学全体のカリキュラムの構築時に統合されていないで、大学3年目或いは4年目に短期間で助産師教育カリキュラムが組み込まれていたり、過剰な科目数や単位数を組み込んでいたりしていることが認められた。そのような背景の中で、統合教育の長所を見失ってしまっている教員もある一方で、統合カリキュラムの長所として、看護学部や看護学科の教員全員で教育していることの安心感、ケアの利用者への全体的なケア能力の高さ、等を認識して、問題点の克服への意欲を持って教育に臨んでいる教員も存在していることを知ることとなった。少子社会に於いて、助産師教育基礎教育の学生1人あたり10例の分娩を取り扱わなければならないという規定があることで、その確保のために、実習期間を所定単位よりも長くするか、実習病院数を多くするか、大学よりも遠方の他の病院を実習病院として確保せざるを得ない実情が教員の実習病院の確保困難、教員の多忙さ、教員不足などの問題点へと発展している実感があることが伺えた。

(2) 卒業生のキャリア開発に関する研究

先ず、キャリア発達及びキャリア開発に関する文献検討からはじめ、看護系大学で助産師教育を受けた卒業生を対象に半構成的面接法を行って、卒業生のキャリア発達の特性

を明らかにした。その特性は、自己評価の適切性、寄り添うケア、クリエイティブシンキング能力、自己開発能力、キャリア発達の柔軟性などが認められた。また、大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の卒業生のキャリア発達と比較するために、1年課程を卒業した助産師を対象にした半構成的面接法を行った結果では、経験歴に比例しない未熟感、自然分娩へのこだわり、キャリアデザインの不透明さなどの特性が認められた。助産師を受け入れている管理者を対象にした面接結果からは、主として新人教育における管理者としての方針として、将来伸びることを期待するや、個々の成長に合わせて育成したいなどが語られた。その中で、大学卒業の助産師の技術の不慣れや意欲のなさが気になるとの発言もあった。

2年間の質的研究の成果を基に、助産師のキャリア発達に関する量的研究を行ったところ、大学と1年間の大学以外の教育機関卒業生間に大きな差は認められなかったが、助産師のキャリア発達に関する課題が認められた。助産師としての未熟感が経験年数の豊富な助産師にも認められ、自己肯定感が低いこと、状況把握力の発達への課題、分娩経過の正常経過からの逸脱への判断力を強化する事への課題などが認められた。

(3) 海外カリキュラム調査結果からの示唆

1年目には、日本と同様に、大学で看護師と助産師の教育を行っている南アフリカ、オーストラリア、タイ王国における大学のカリキュラムに関連した資料を取り寄せて分析した。その結果、日本と類似なシステムで教育をしていて、研究協力の得られたタイのマハサラカーム大学から詳細な資料を取り寄せて分析し、2年目の終りに調査に出かけた。

訪問先の大学では、日本と同様に助産師教育を統合カリキュラムで行っているが、我が国の統合カリキュラムにおける助産師教育が一部の学生の選択制であるのに対して、学生全員の必修性になっていることである。これを可能にしているのには、在学中における学生一人あたりの分娩取扱例数が10例を目標にしてあるが、日本に比してその規定に対する拘束力は強くはないこと、年間の分娩例数が多いという事が考えられる。

調査に於いて、我が国の参考になると思われることはその教育方法である。助産師教育の関連する講義科目に母性看護学関連科目も含めて、授業(講義、演習や実習)を4年間に分散させて、3段階に分けて授業を行って、講義と演習や実習を併行させている。

(4) 到達目標の構築

過去3年間の研究実績から本研究の最終目的である到達目標の構築を行った。その構築に当たっては、看護教育の在り方に関する検討会の報告書「看護実践能力育成の充実に向

けた大学卒業時の到達目標（平成 16 年 3 月）に記載されている「卒業時到達目標とした看護実践能力の構成と卒業時到達度」における～群の各群を枠組みとして検討し、各群の区分を次の様に置き換えた。群：ヒューマンケアの基本に関する実践能力；マタニティーサイクルにおけるヒューマンケアの基本に関する実践能力、群：看護の計画的な展開能力；助産診断の実施と計画的なケアの展開能力、群：特定の健康問題を持つ人への実践能力；リプロダクティブ・ヘルスに関する健康問題を持つ人への看護実践能力、群：ケア環境とチーム体制整備能力；周産期の母子保健医療チームの体制整備能力、群：実践の中で研鑽する基本能力；リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関連する実践する中での研鑽する基本能力

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

吉沢豊予子：タイ王国の助産師教育、助産雑誌第 60 巻 8 号 p.730-731、2007.7、査読無

〔学会発表〕（計 20 件）

村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、石井邦子、岩間薫、高橋司寿子：看護系大学における助産師教育のあり方-看護系大学の統合カリキュラムの分析-、第 26 回日本看護科学学会学術集、2006.12.3、東京都、査読有

石井邦子、村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、岩間薫、高橋司寿子：看護系大学の統合カリキュラムによる助産師教育の実態調査、第 48 回日本母性衛生学会学術集会 2007.10.11、つくば市、査読有

鈴木幸子、遠藤俊子、渡部尚子、成田伸、齋藤益子、加藤千晶、藤本薫：看護系大学統合カリキュラムで教育された助産師の卒後の看護実践能力の変化、仕事と人生設計についての認識、第 48 回日本母性衛生学会学術集会、2007.10.12、つくば市、査読有

成田伸、遠藤俊子、鈴木幸子、渡部尚子、齋藤益子、加藤千晶、藤本薫：助産師のキャリア開発とキャリアパスに関する文献的考察、第 48 回日本母性衛生学会学術集会、2007.10.12、つくば市、査読有

吉沢豊予子、山本あい子：看護系大学におけるタイと日本の助産師教育カリキュラムの比較、第 48 回日本母性衛生学会学術集会、2007.10.12、つくば市、査

読有

新道幸恵、村本淳子、遠藤俊子、吉沢豊予子、看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の意義と成果、第 27 回日本看護科学学会学術集会、2008.12.8、東京都、査読有

村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、石井邦子、岩間薫：4 年制大学での助産師教育における統合カリキュラムのよい点と問題点、第 27 回日本看護科学学会学術集会、2007.12.7、東京都、査読有

大井けい子：統合カリキュラムにおける助産師教育カリキュラムの構築に関するセミナー-統合カリキュラムにおける助産師教育実践例、統合カリキュラムにおける助産師教育カリキュラム構築に関するセミナー、2007.12.9、東京都、査読有

石井邦子、村本淳子、新道幸恵、大井けい子、森恵美、岩間薫：統合カリキュラムにおける助産師教育カリキュラムの構築に関するセミナー-統合カリキュラムにおける助産師教育モデル案、統合カリキュラムにおける助産師教育カリキュラム構築に関するセミナー、2007.12.9、東京都、査読有

藤本薫、遠藤俊子、鈴木幸子、渡部尚子、成田伸、齋藤益子、加藤千晶、新道幸恵：産科病棟師長・副師長からみた助産師のキャリア発達とその支援、第 10 回日本母性看護学会学術集会、2008.6.21、大阪市、査読有

遠藤俊子、鈴木幸子、渡部尚子、成田伸、齋藤益子、加藤千晶、藤本薫：助産師のキャリア発達の特徴、第 10 回日本母性看護学会学術集会、2008.6.22、大阪市、査読有

成田伸：助産師のキャリア発達とこれからのキャリアパス、第 44 回日本周産期・新生児医学会、2008.7.15、横浜、査読有

石井邦子、村本淳子、新道幸恵、安枝尚美、大井けい子、森恵美、岩間薫：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標（第 1 班）第 10 回看護系大学助産師教育研究会、2008.8.2、駒ヶ根市、招聘

鈴木幸子、遠藤俊子、成田伸、渡部尚子、齋藤益子、新道幸恵：助産師基礎教育 1 年課程卒業助産師のキャリア発達の特徴と病棟管理者の認識、第 10 回看護系大学助産師教育研究会、2008.8.2、駒ヶ根市、招聘

吉沢豊予子、山本あい子：看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の意義と成果、諸外国の学びから、第 10

回看護系大学助産師教育研究会、
2008.8.2、駒ヶ根市、招聘
森恵美、村本淳子、新道幸恵、大井けい
子、石井邦子、岩間薫：学士課程におけ
る助産師教育に関する調査（第1報）-
統合カリキュラムによる大学卒の助産
師に期待する能力、第49回日本母性衛
生学会学術集会、2008.11.7、浦安市、
査読有

大井けい子、新道幸恵、森恵美、石井邦
子、村本淳子、岩間薫：学士課程におけ
る助産師教育に関する調査（第2報）-
実習教育の特徴と課題、第49回日本母
性衛生学会学術集会、2008.11.7、浦安
市、査読有

石井邦子、村本淳子、新道幸恵、大井け
い子、森恵美、岩間薫：学士課程におけ
る助産師教育に関する調査（第3報）-
卒業時の到達度および到達度評価、第49
回日本母性衛生学会学術集会、
2008.11.7、浦安市、査読有

鈴木幸子、遠藤俊子、成田伸、齋藤益子、
加藤千晶、藤本薫、渡部尚子、新道幸恵：
助産師基礎教育1年課程卒業の助産師の
キャリア発達の特徴と病棟看護管理者
の認識、第49回日本母性衛生学会、
2008.11.7、浦安市、査読有

新道幸恵、村本淳子、遠藤俊子、吉沢豊
予子、学士課程の統合カリキュラムにお
ける助産師教育の効果的展開のための
方略、第28回日本看護科学学会学術集
会、2008.12.14、福岡市、査読有

〔その他〕

新道幸恵、村本淳子、大井けい子、森恵
美、石井邦子、高橋司寿子、遠藤俊子、
渡辺尚子、鈴木幸子、成田伸、齋藤益子、
吉沢豊予子、山本あい子、岩間薫、加藤
千晶、藤本薫、看護系大学の統合カリキ
ュラムにおける助産師教育の到達目標に
関する検討、文部科学研究補助金（基
盤研究B）研究成果報告書、2007.

新道幸恵、村本淳子、大井けい子、森恵
美、石井邦子、岩間薫、遠藤俊子、渡辺
尚子、鈴木幸子、成田伸、齋藤益子、吉
沢豊予子、山本あい子、加藤千晶、藤本
薫、西原由紀乃、看護系大学の統合カリ
キュラムにおける助産師教育の到達目
標に関する検討、文部科学研究補助金
（基盤研究B）研究成果報告書、2008.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新道 幸恵（SHINDO SACHIE）
日本赤十字広島看護大学・看護学部・看護
学科・教授
研究者番号：30162796

(2) 研究分担者

村本 淳子（MURAMOTO JYUNKO）
三重県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：50239547
（平成18・19年度は分担金なし、平成20
年度は分担金あり）

遠藤 俊子（ENDO TOSHIKO）
山梨大学・医学工学総合研究部・教授
研究者番号：00232992

（平成18・19年度は分担金なし、平成20
年度は分担金あり）

大井 けい子（OI KEIKO）
青森県立保健大学・健康学部・教授
研究者番号：30223712

（平成18・19年度は分担金なし）

森 恵美（MORI EMI）
千葉大学・看護学部・教授

研究者番号：10230062

（平成18・19年度は分担金なし）

石井 邦子（ISHII KUNIKO）
千葉大学・看護学部・准教授

研究者番号：70247302

（平成18・19年度は分担金なし）

渡部 尚子（WATANABE HISAKO）
聖路加看護大学・客員教授

研究者番号：40100622

（平成18・19年度は分担金なし）

鈴木 幸子（SUZUKI SACHIKO）
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：30162944

（平成18・19年度は分担金なし）

成田 伸（NARITA SHIN）
自治医科大学・看護学部・教授

研究者番号：20237605

（平成18・19年度は分担金なし）

齋藤 益子（SAITO MASUKO）

東邦大学・医学部・教授

研究者番号：30289962

（平成18・19年度は分担金なし）

吉沢 豊予子（YOSHIZAWA TOYOKO）
東北大学大学院・医学系研究科・教授

研究者番号：80281252

（平成18・19年度は分担金なし）

山本 あい子（YAMAMOTO AIKO）

兵庫県立大学・看護学研究科・教授

研究者番号：80281252

（平成18・19年度は分担金なし）

(3) 連携研究者

大井 けい子（OI KEIKO）
青森県立保健大学・健康学部・教授
研究者番号：30223712

（平成20年度のみ）

森 恵美（MORI EMI）

千葉大学・看護学部・教授

研究者番号：10230062

（平成20年度のみ）

石井 邦子 (ISHII KUNIKO)
千葉大学・看護学部・准教授
研究者番号：70247302
(平成20年度のみ)

渡部 尚子 (WATANABE HISAKO)
聖路加看護大学・客員教授
研究者番号：40100622
(平成20年度のみ)

鈴木 幸子 (SUZUKI SACHIKO)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授
研究者番号：30162944
(平成20年度のみ)

成田 伸 (NARITA SHIN)
自治医科大学・看護学部・教授
研究者番号：20237605
(平成20年度のみ)

齋藤 益子 (SAITO MASUKO)
東邦大学・医学部・教授
研究者番号：30289962
(平成20年度のみ)

吉沢 豊予子 (YOSHIZAWA TOYOKO)
東北大学大学院・医学系研究科・教授
研究者番号：80281252
(平成20年度のみ)

山本 あい子 (YAMAMOTO AIKO)
兵庫県立大学・看護学研究科・教授
研究者番号：80281252
(平成20年度のみ)

高橋 司寿子 (TAKAHASHI SHIZUKO)
青森県立保健大学・助手
研究者番号：30381304

岩間 薫 (IWAMA KAORU)
秋田看護福祉大学・准教授
研究者番号：50299781

安枝 尚美 (YASUEDA NAHOMI)
日本赤十字広島看護大学・看護学部・助手
研究者番号：80446070